

スポーツ庁委託事業「令和7年度幼児期からの運動習慣形成プロジェクト」

シンポジウム（成果報告会）inとちぎ ～幼児期からの運動あそびの重要性～

幼児期からの運動習慣形成プロジェクト

運動遊びに関する指導者の考え方の
特徴に関する調査 分析結果報告（第一報）

宇都宮大学 共同教育学部

教授 博士（教育学） 石塚 諭

■ 調査の背景

現行の小学校学習指導要領では、
小学校低学年の運動領域が「**○○遊び**」となっている。



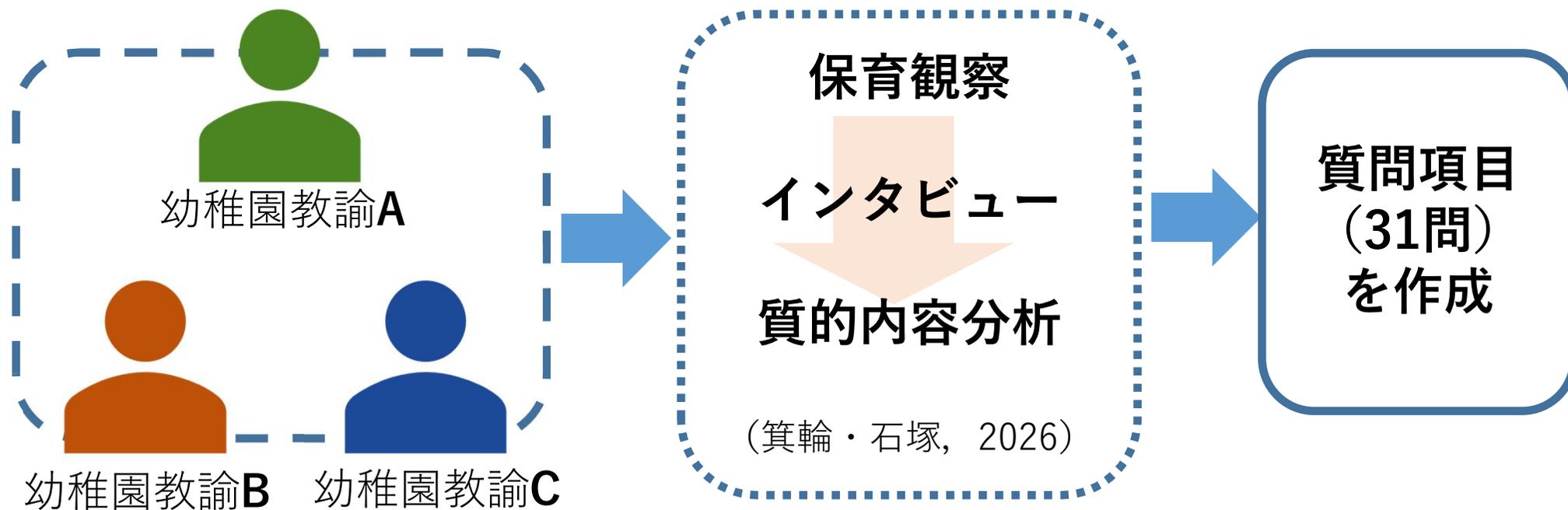
次期学習指導要領改訂に向けたWGの議論

運動領域の名称、小4まで「**遊び**」に 体育系統性の改善案を議論
(教育新聞, 2025.12月)

幼児期の**運動遊び**の重要性がますます高まる

調査の目的

運動遊び場面における場や環境に対する
指導者の**考え方の特徴**を明らかにする

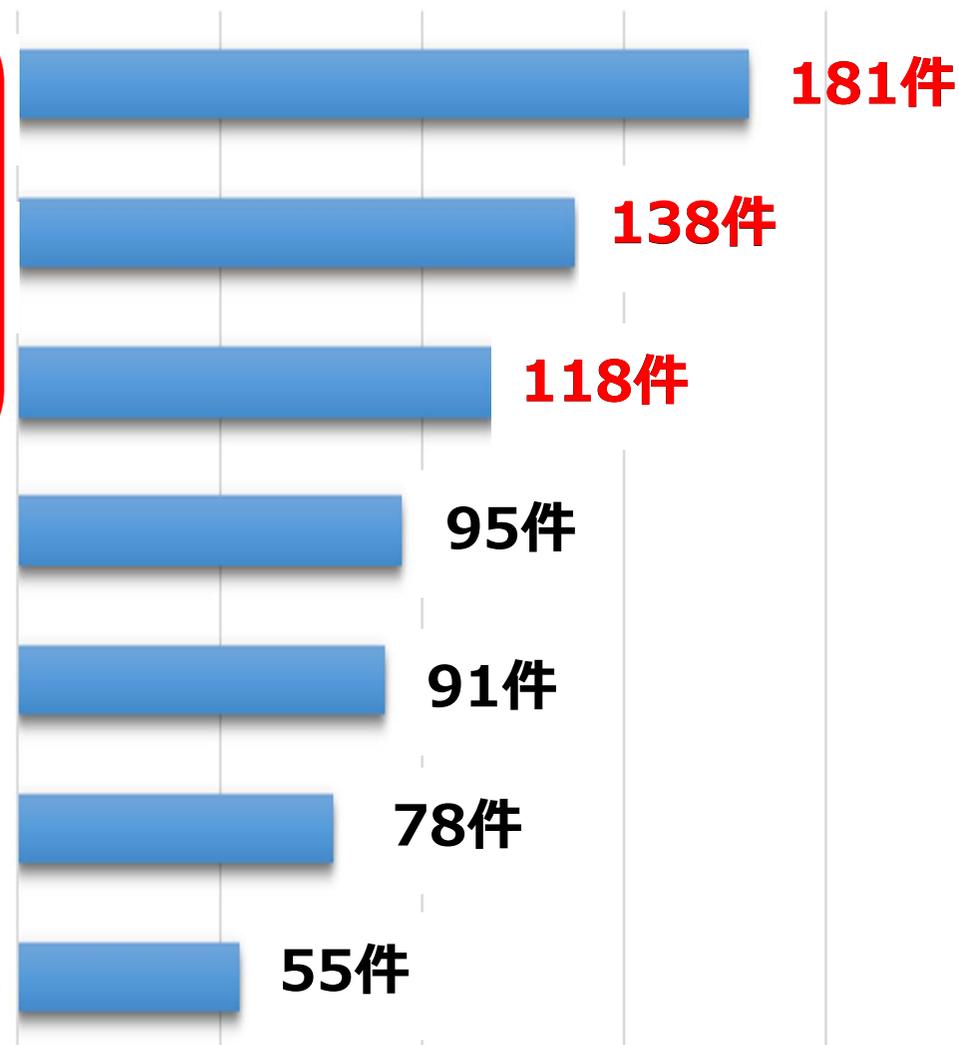


■ 対象者の属性 (n=245)

- ✓ **性別** 女性 (85.7%)、男性 (13.1%)、回答なし (1.2%)
- ✓ **所属** 保育所 (園) (51.8%)、幼稚園 (4.5%)
認定こども園 (幼保連携型18.4%、幼稚園型18.0%、保育園型7.3%)
- ✓ **勤務経験** 若手 (11.4%)、中堅 (25.3%)、ベテラン (63.3%)
1~5年目 6~15年目 16年目以降
- ✓ **小学校での勤務経験** あり (4.5%)、なし (95.5%)
- ✓ **園庭の広さ** 狭い (23.3%)、適切 (35.1%)、広い (41.6%)
- ✓ **運動習慣** 習慣的 (26.9%)、時々 (26.6%)、ほとんど行っていない (46.5%)
- ✓ **部活動経験** 運動部 (91.8%)、文化部・その他 (7.0%)、なし (1.2%)
- ✓ **運動への自信** ある (6.9%)、どちらかといえばある (36.7%)
どちらかといえはない (42.9%)、ない (13.5%)

■ 先生方の要望（4つまで複数回答）

1. 準備が簡単で、室内や狭いスペースでもすぐに実践できる遊びの紹介
2. 運動遊びのバリエーションを増やすための実技研修
3. 子どもたちが見て、そのまますぐ動ける、楽しい運動（体操）動画
4. 他の園の工夫や好事例が見られる共有サイト（写真・動画）
5. 運動会や保育参観などの行事で、専門家が親子に直接「遊びのコツ」等を教えてくれる出前教室
6. 自園の環境をどう活かせるか一緒に考えてくれるオーダーメイド型の助言
7. 保護者や教員向け、幼児期からの運動遊びの重要性を説明する資料（チラシ・動画）



自由記述（3件）

- **運動遊びの定義**の研修(少々の危険が伴う遊びが必要だと感じるが**保育士の感じ方に差がある**と感じるため).
- 幼児教育が環境を通して学ぶことや、**遊びを通しての学びは、体操教室のようなクラブではない**ことを保育者が理解し、実践できるようにすること。各園にそのことを伝える研修プログラムや、法制度の整備.
- 運動遊びの充実を目的とした**資金の援助**.

結果概要

n=245 5件法：強くそう思う（5点）／ややそう思う（4点）／どちらともいえない（3点）／あまりそう思わない（2点）／全くそう思わない（1点）

【環境設定】

質問項目	平均値	標準偏差
4. 子どもが自分で遊ぶ場所や用具を選択できるように、複数のコーナーを設けている。	3.83	0.94
6. 新しい遊具や素材を出すときは、子どもたちの興味が最も高まる導入のタイミングを計っている。	3.97	0.84
12. 少し勇気が必要なことにも、子どもが意欲的に挑戦できるような環境を意図的に作っている。	4.11	0.63
14. 異年齢や他クラスの子どもの活動が刺激になるよう、相互に見える環境を意図的に作っている。	3.90	0.88
18. 屋外での活動だけでなく、室内でも十分に身体を動かせる工夫をしている。	4.00	0.82
21. <u>子どもの集中が切れていると感じたら、活動の途中でも用具の配置や設定を柔軟に変更する。</u>	4.20	0.65

【内容とねらい】

1. ジャンケンや鬼ごっこなど、ゲーム性・ルールのある遊びを積極的に取り入れている。	3.88	0.84
8. 運動が苦手な子に合わせて、全員が安心して参加できる難易度設定を心がけている。	3.60	0.86
9. 遊びに物語（ストーリー）性を持たせ、イメージ共有しながら体を動かせるよう配慮している。	3.55	0.87
10. 特定の動き（跳ぶ、回るなど）よりも、十分な活動量（運動量）を確保することを重視している。	3.42	0.81
15. 運動遊びにおいて、特定の身体技能（逆上がり、跳躍など）の習得は重要な目標の一つである。	3.40	1.01
17. 「回る・ぶら下がる」などの感覚的な経験を意識的に遊びに取り入れている。	3.64	0.91
22. <u>運動遊びは、友だちとの関わりや協調性を育むための重要な手段だと考えている。</u>	4.30	0.66
29. 技能の上達よりも、「体を動かすことは楽しい」と感じる心情を育てることを最優先している。	4.53	0.60
30. <u>運動遊びにおいて、教師よりも友だち同士の刺激や影響力の方が大きいと感じる。</u>	4.23	0.72

【教師の役割】

質問項目	平均値	標準偏差
2. 遊びが停滞した際は、教師が新しい動きや遊び方を提案するようにしている。	3.87	0.70
7. 活動の「ねらい」を達成するために、子どもの興味の方角とは異なる展開に誘導することがある。	2.78	0.87
11. 活動の導入では、まず教師が手本（モデル）を見せるようにしている。	4.07	0.84
23. 特定の動き（跳ぶ、回るなど）を経験させるために、教師が遊びの主導権を握ることが多い。	3.08	0.89
25. 事前に複数の展開パターン（プランBなど）を用意して保育、教育に臨んでいる。	3.56	0.82
26. 次回への期待感を高めるために、遊びが盛り上がっている最中にあえて活動を終了させることがある	2.48	0.89

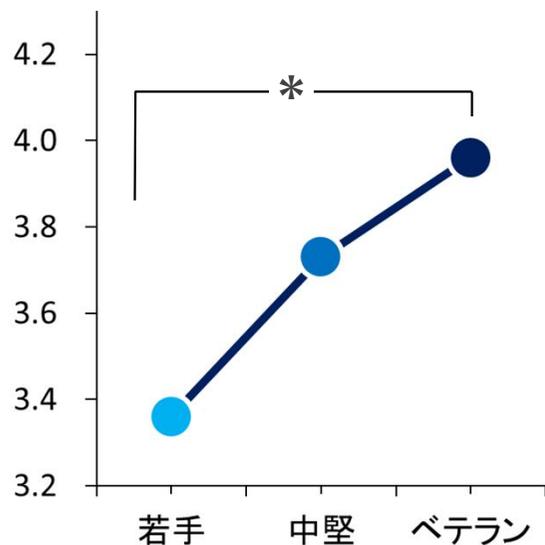
【姿勢】

16. 遊びのルールは教師が提示するのではなく、子どもたち自身で決めるプロセスを重視している。	3.62	0.83
19. 指導案や事前の計画通りに進めることよりも、その場の子どもの反応や流れを重視する。	4.08	0.73
27. 子どもが楽しんでいるならば、教師の意図した動きと違っていてもそのまま継続させる。	3.97	0.81
31. 子どもが自発的に動き出すのをじっくりと待つ「静観」の姿勢を大切にしている。	3.47	0.83

【課題と安全】

3. 子どもの意欲があっても、怪我のリスクが予見される遊びは制限している。	3.44	0.93
5. 小さな怪我であれば、子どもが自ら危険を察知する力を養うための「学びの機会」と捉えている。	4.05	0.83
13. 教師が環境を整えても、子どもたちがなかなか興味を示さないことがある。	3.26	0.90
20. 子どもたちの興味や運動能力の個人差が大きく、クラス全員への一斉指導には難しさを感じている。	3.75	0.95
24. 今の子どもたちは、経験の少なさからか、遊びを自分たちで広げていく力に課題があると感じる。	3.78	0.97
28. 他の教師と意見交換や相談をしながら、活動内容を柔軟に決めている。	4.24	0.71

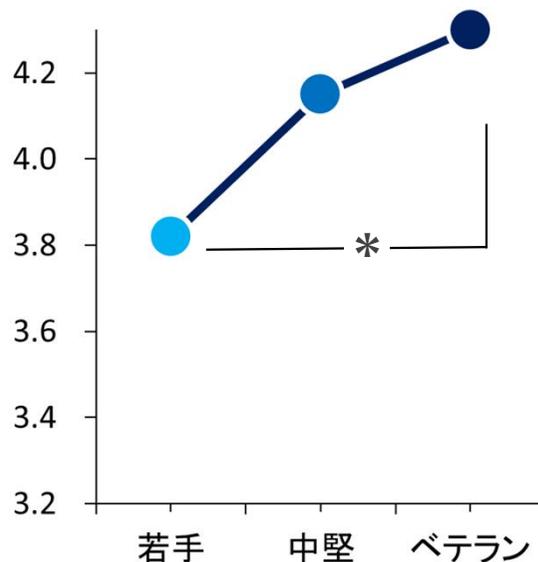
■ 「見通す力」と「備える力」: 経験とともに高まる環境構成



【環境構成】

選択を促す
コーナー構成

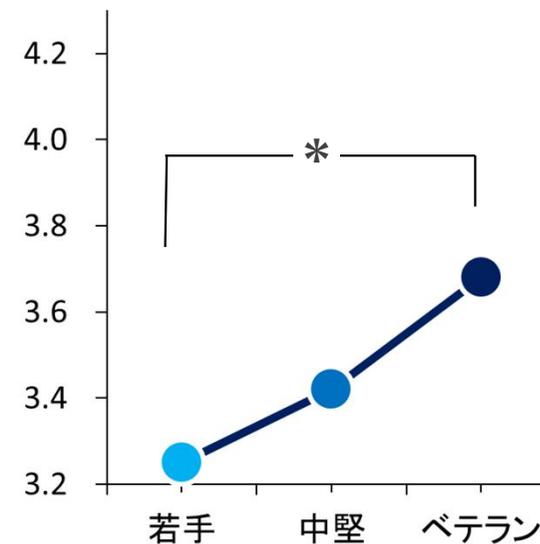
遊びの選択肢を広げる



【環境構成】

集中力に応じた
環境の柔軟な変更

子どもの姿に即時対応



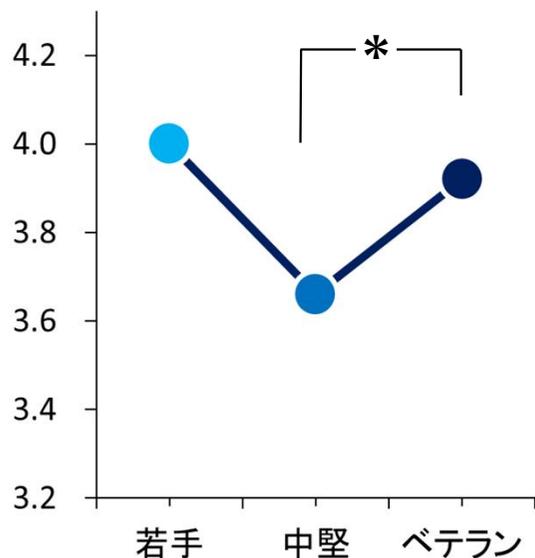
【教師の役割】

複数展開の予測
(プランBなど)

多角的な
シュミレーション

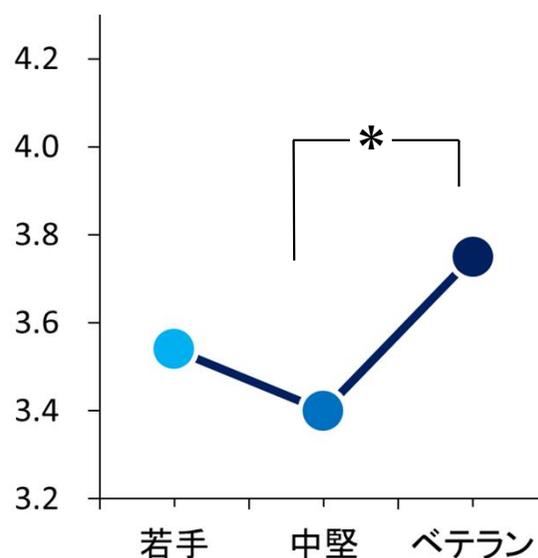
経験が**見通し**に、見通しが保育の**ゆとり**に 積み上がる**実践の知恵**

実践の質が変わる転換点：中堅期の葛藤と再構築



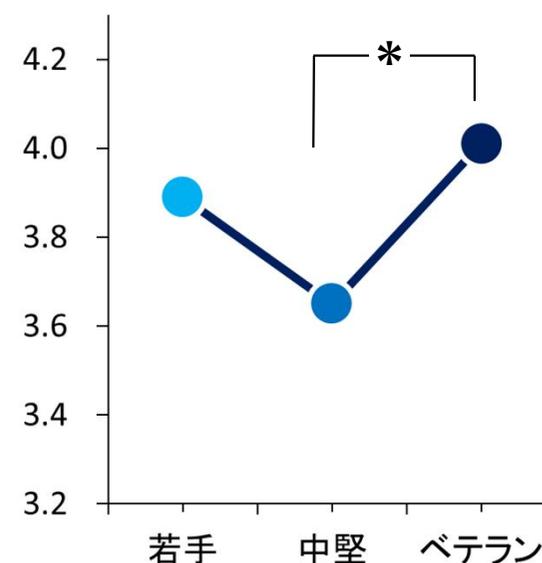
【教師の役割】
停滞時の能動的な介入

積極性－見守り－機を逃さない介入



【内容とねらい】
多様な感覚経験の提供

遊びの意図の再構築



【環境構成】
異年齢・他クラスとの相互交流

児クラスから園全体への
視点の広がり

■ 実践の質が変わる転換点：中堅期の葛藤と再構築

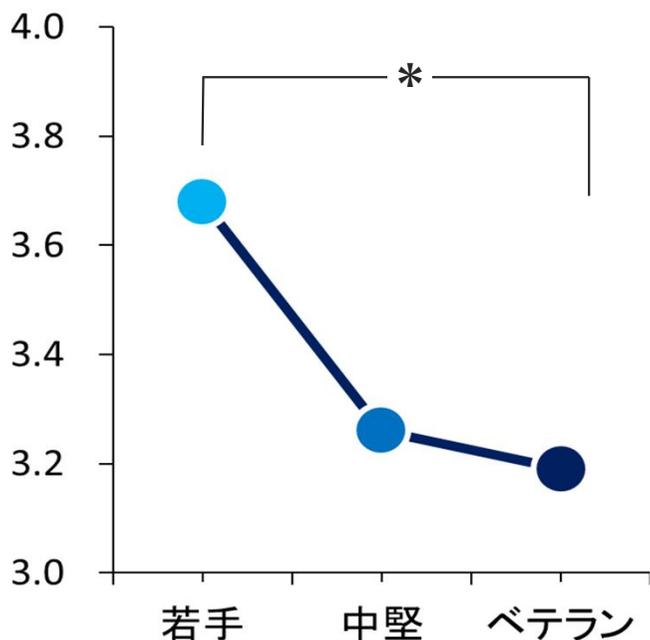
「ルールのある遊びの導入」「物語性によるイメージ共有」も同様の傾向

- 若手：手法や型を「そのまま」実践する（**素直な実践**）？
- 中堅：型通りではいけない現実に直面し、これまでのやり方を「**疑い、再構築する**」時期。一時的に数値が停滞・低下する傾向が見られるか？
- ベテラン：葛藤を乗り越え、子どもの実態に合わせて手法を「**自在に使いこなす**」**熟達**の域に達している？



質の高い保育へと飛躍するための「**重要な転換プロセス**」では？

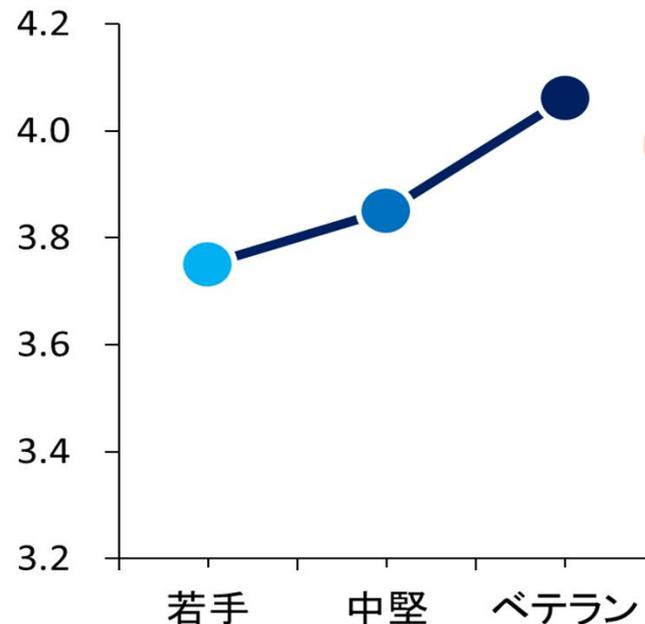
■ 「技術」や「悩み」は変化 「マインド」は変わらない



【課題・安全】

環境への無関心という課題感

若手のうちは「想定外の反応」を課題（悩み）として捉え、経験を積むことで、柔軟な微調整が可能になり、解消されていく？



【姿勢】

子どもの主体性に寄り添う姿勢

子どもの
思い優先

プロセス
重視

「子どもに寄り添う姿勢」は全キャリアを通じて高い数値で安定。経験年数を問わず、すべての先生が共有している「マインド」

■ まとめ: 保育者として歩み続ける皆さまへ

保育者の成長

- 若手はマインド（寄り添い）を信じ、中堅は葛藤を恐れず、ベテランは蓄積した技を次世代へ。

チームで支える運動遊び

- 運動習慣や自信、園庭の広さなどの環境的課題があっても、この「**寄り添うマインド**」を共有することが質の向上に繋がる。

幼小の架け橋として

- 保育者が葛藤を経て、**子どもの「動きたい」**という内発的動機付を生んでいる。このプロセスを、小学校（体育）へ繋いでいく

幼児期からの運動習慣形成プロジェクト

②分析結果等の報告

保護者の子どもとの運動実態と運動意識に着目して



UTSUNOMIYA KYOWA UNIV.

宇都宮共和大学 子ども生活学部

しもふれ ともりの

霜触 智紀

幼児期運動指針

ガイドブック

毎日、楽しく体を動かすために

幼児期運動指針策定委員会



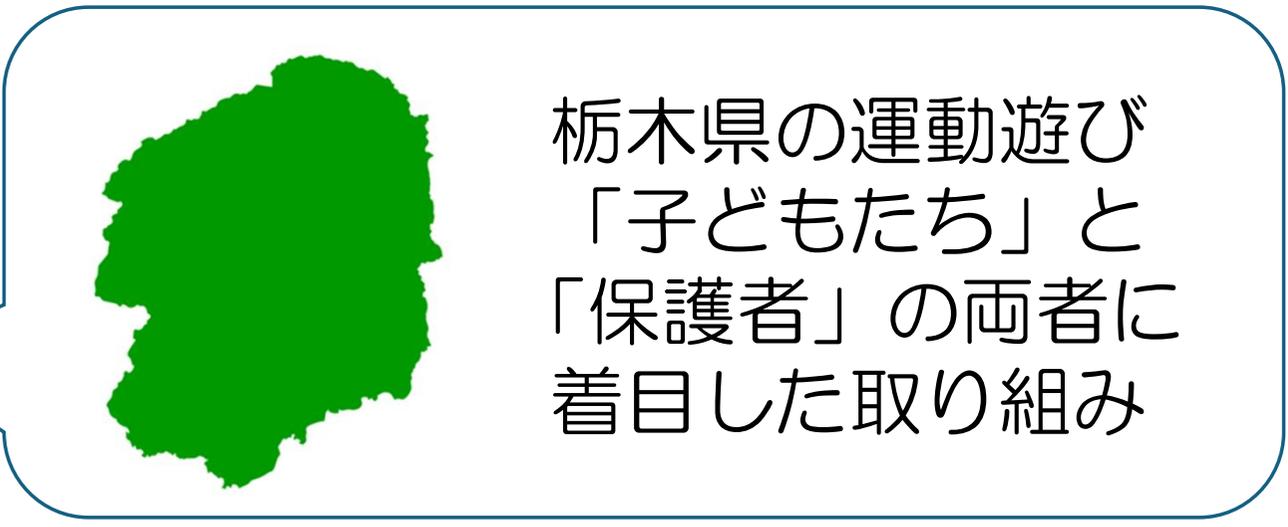
文部科学省

2023 年度
調査報告書

全国の幼児(3~6歳)を対象とした
運動実施状況に関する調査研究
~幼稚園・保育園以外における幼児の運動実施の実態調査~

2024年3月

 笹川スポーツ財団
SASAKAWA SPORTS FOUNDATION



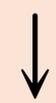
栃木県は？



栃木県の運動遊び
「子どもたち」と
「保護者」の両者に
着目した取り組み

【目的】

講話及び運動遊び教室時と事後に
保護者・保育者へのアンケートを実施



栃木県の実態を明らかにすること



回答者の属性（以降の分析で関連あるもの）

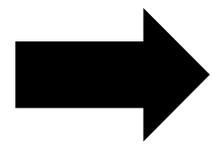
	保護者（事前）	保護者（事後）	保育者
全体	114名	67名	48名
運動の好き嫌い	好き：82名 嫌い：32名	-	好き：44名 嫌い：4名
運動の実施	運動群：43名 非運動群：71名	-	運動群：32名 非運動群：12名

- 分析は正規性の検定を実施し、ノンパラメトリックの手法を用いた
- 宇都宮共和大学研究倫理審査委員会の承認を得ています（2501）

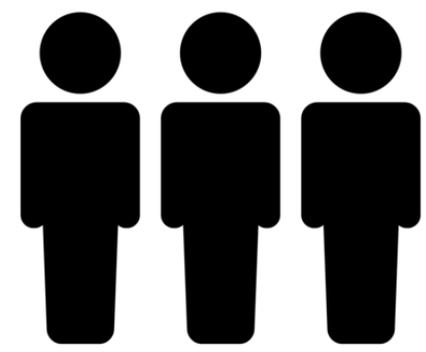
保護者の意識変容

保護者の意識変容

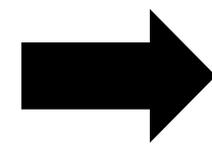
講話
運動遊び教室



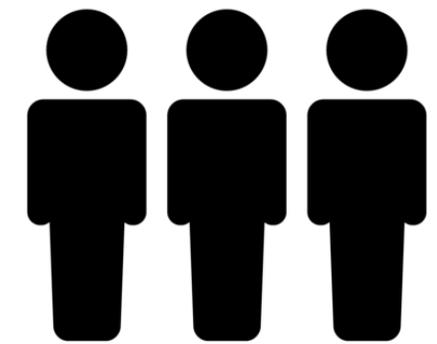
実施
直後



第1回
アンケート



1ヶ月
前後



第2回
アンケート

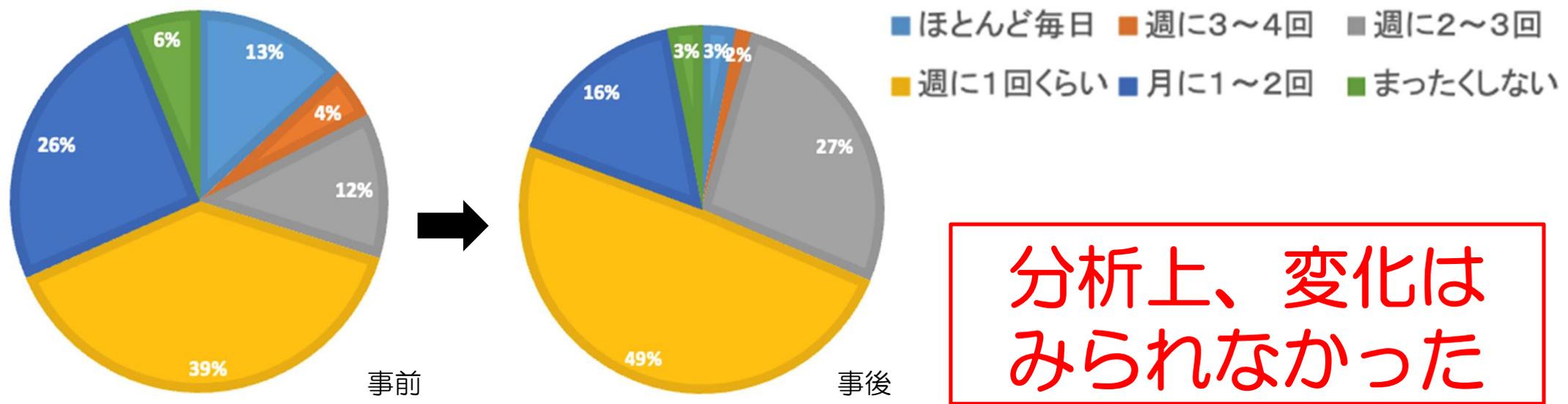
ここの変化を分析

保護者の意識変容



【分析対象の主な質問項目】

子と一緒に体を動かしているか



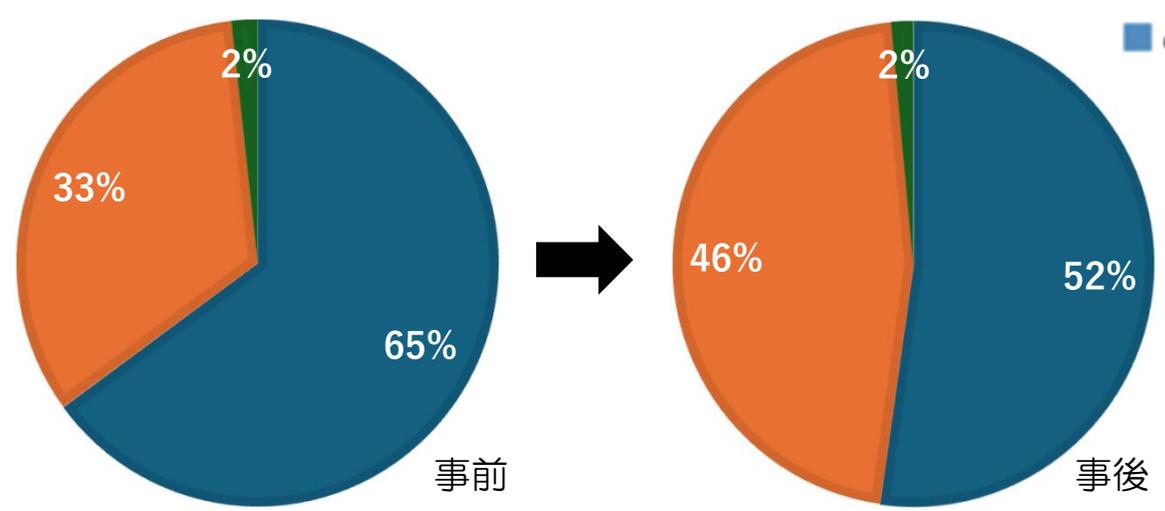
分析上、変化は
みられなかった

保護者の意識変容



【分析対象の主な質問項目】

今後、子と一緒に体を動かそうと思うか



分析上、変化は
みられなかった

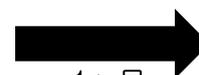
保護者の意識変容

講話
運動遊び教室



第1回
アンケート

この変化を分析



1ヶ月
前後

第2回
アンケート

【分析対象の主な質問項目】

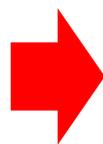
子と一緒に体を動かしているか

「週一回くらい」との
回答が最も多い

今後、子と一緒に体を動かそうと思うか

「とても思う」との
回答が最も多い

統計上、変化はみられなかった



子どもと体を動かしたいというポジティブな意識がみられる
親子の身体活動の行動に移すための効果的支援策を講ずる必要性

保護者の運動の好き嫌い別に みたま意識の比較

保護者の運動の好き嫌い別
にみた意識の比較

第1回アンケート

講話
運動遊び教室



運動好き群

運動嫌い群



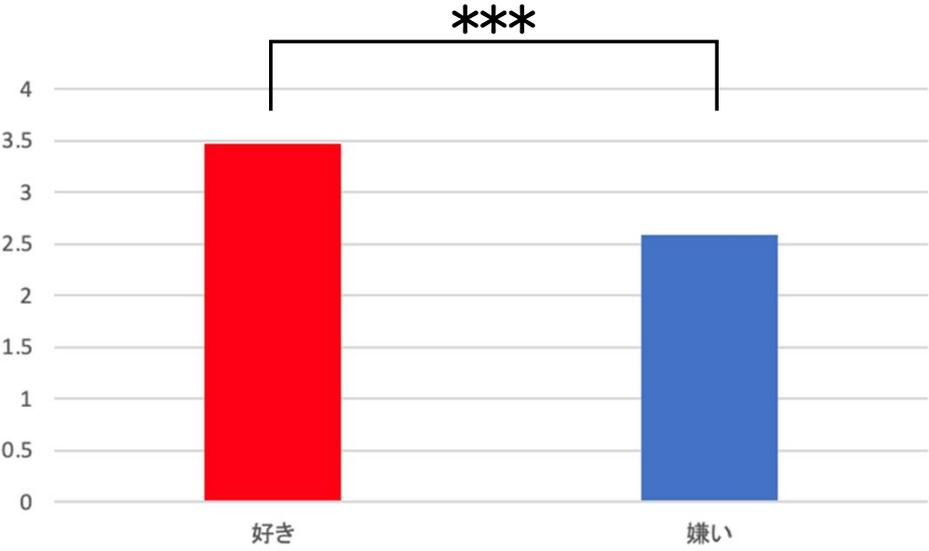
ここの意識を比較分析

保護者の運動の好き嫌い別に
みた意識の比較

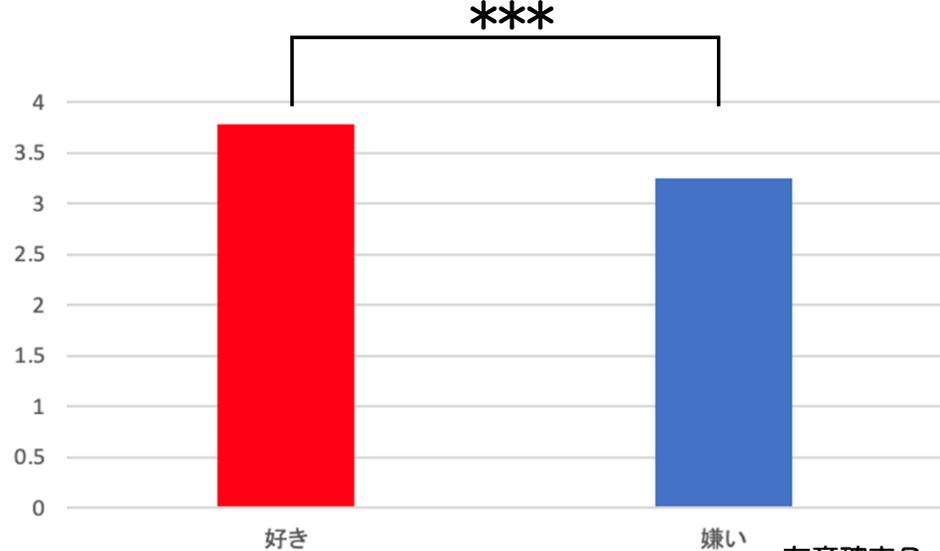
運動好き群

運動嫌い群

子と一緒に
体を動かしているか



今後、子と一緒に
体を動かそうと思うか



有意確率P ***<.001

親が運動を好き
→子どもと一緒に体を動かす傾向

親が運動を好き
→今後、子どもと一緒に
体を動かす可能性が高まる

保護者の運動習慣の有無別 にみた意識の比較

保護者の運動習慣の有無別に
みた意識の比較

第1回アンケート

講話
運動遊び教室



運動習慣あり群

運動習慣なし群

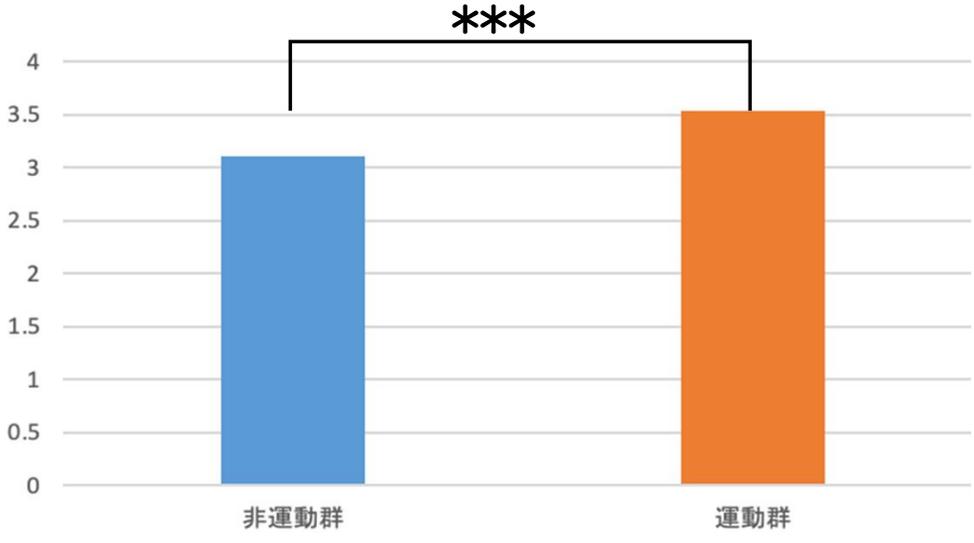


ここの意識を比較分析

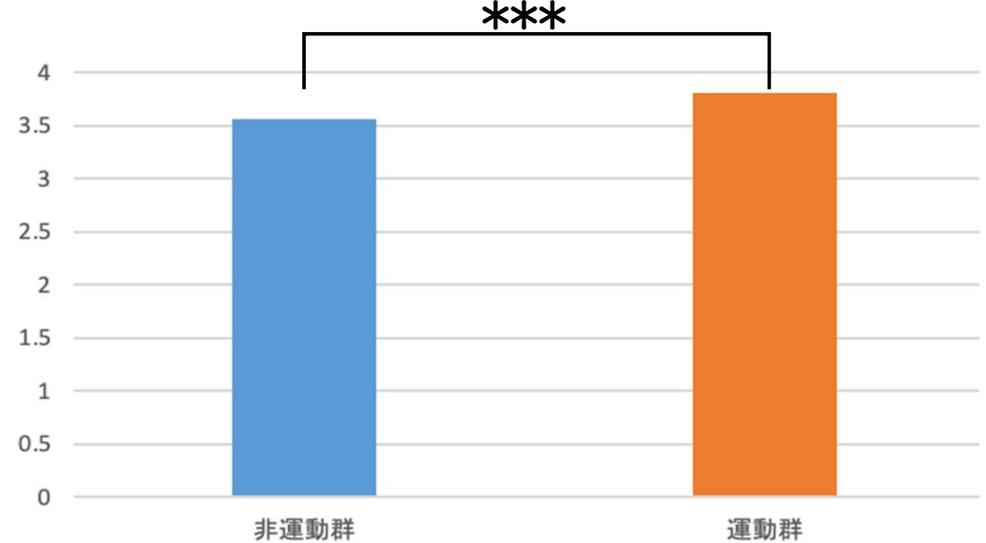
保護者の運動習慣の有無別にみた意識の比較



子と一緒に体を動かしているか



今後、子と一緒に体を動かそうと思うか



有意確率P ***<.001

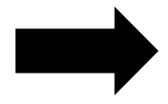
親が運動習慣あり
→子どもと一緒に体を動かす傾向

親が運動習慣あり
→今後、子どもと一緒に体を動かす可能性が高まる

保育者と保護者の 運動に関する意識・回答の比較

保育者と保護者の
運動に関する意識・回答の比較

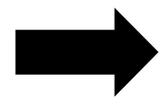
講話
運動遊び教室



第1回アンケート

保護者

保育者向け
運動遊び研修会等



保育者

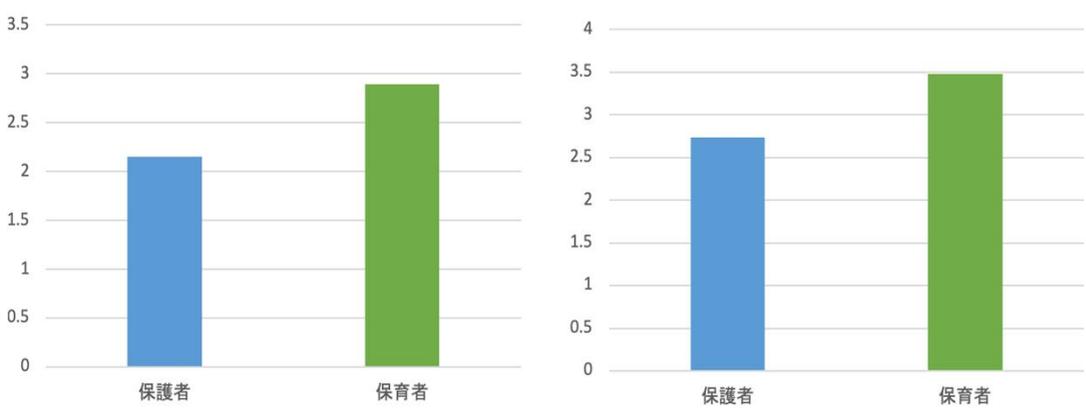


ここの回答を
比較分析

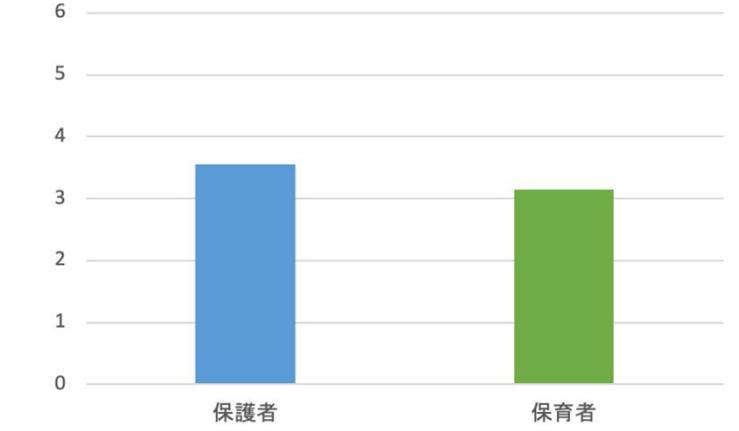


保育者と保護者の
運動に関する意識・回答の比較

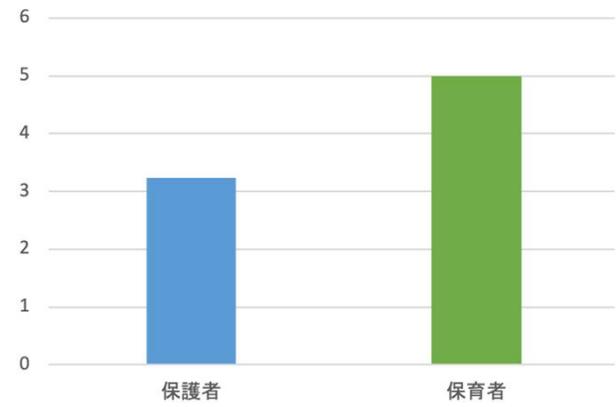
※統計的有意差がみられた項目のみ掲載
左が保育者 右が保護者



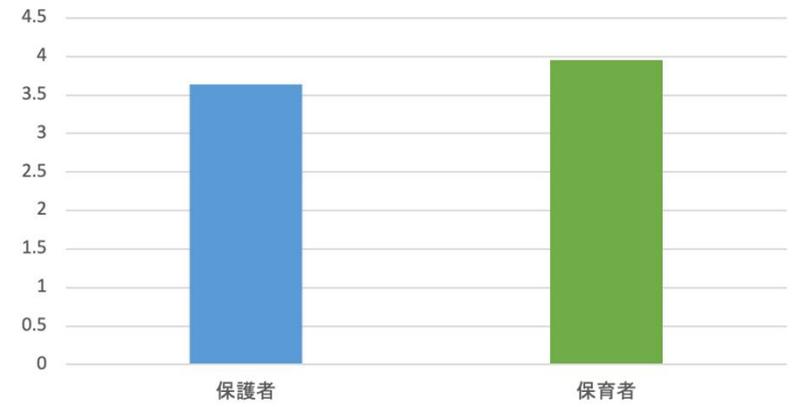
1日のスクリーンタイム (スマホ、PC、TV等)
左が平日、右が休日



子どもが、1日あたり体を動かして遊ぶ時間の長さの認知

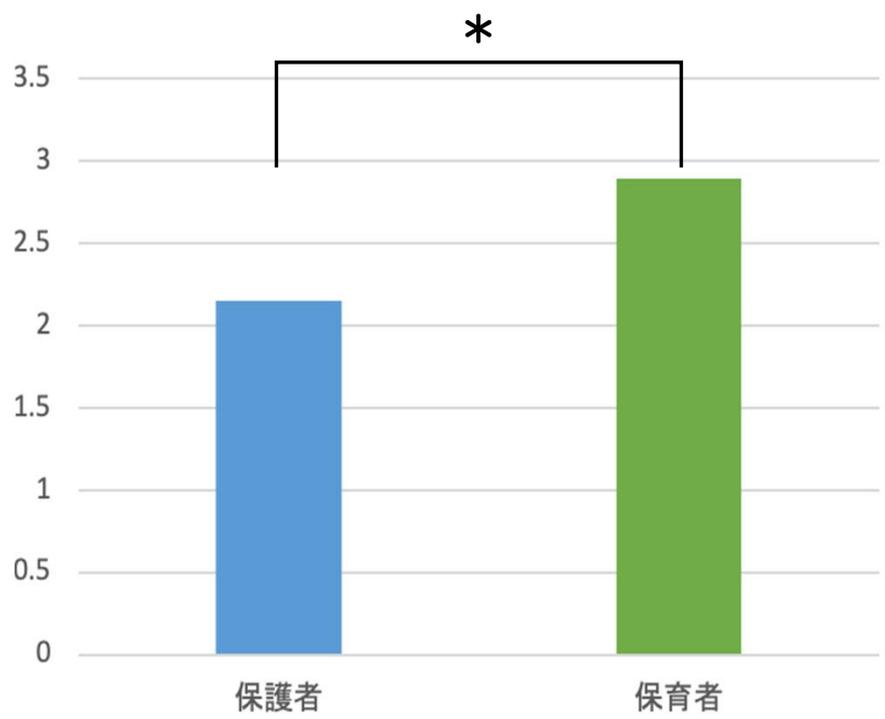


子どもと一緒に体を動かして遊んでいる (保育者は勤務中)

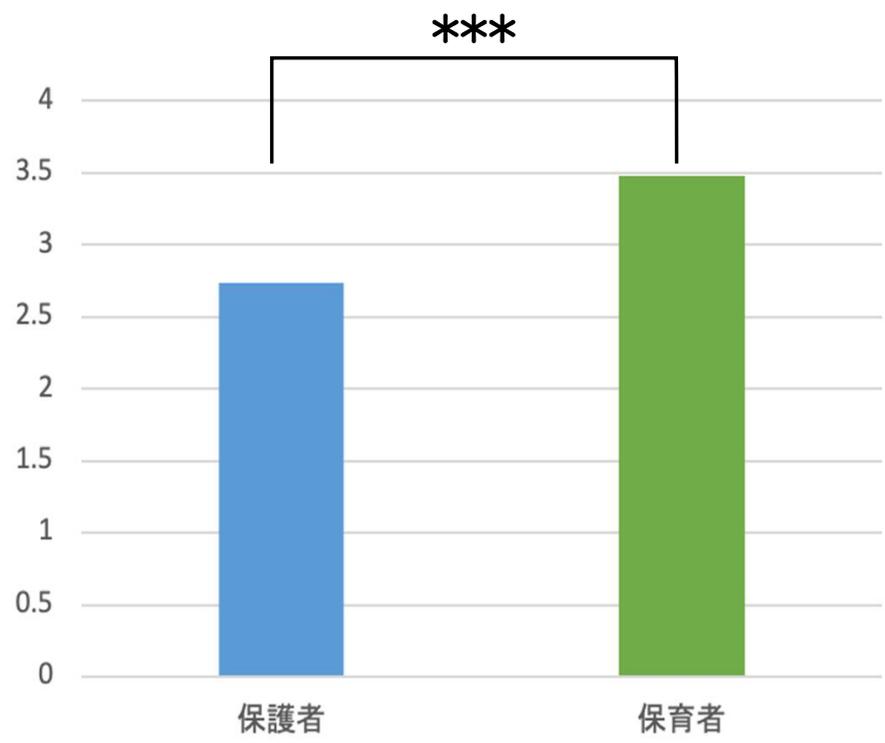


今後、子どもと一緒に体を動かしてと遊ぼうと思っている (保育者は勤務中)

保育者と保護者の
運動に関する意識・回答の比較



1日のスクリーンタイム (スマホ、PC、TV等)
左が平日、右が休日



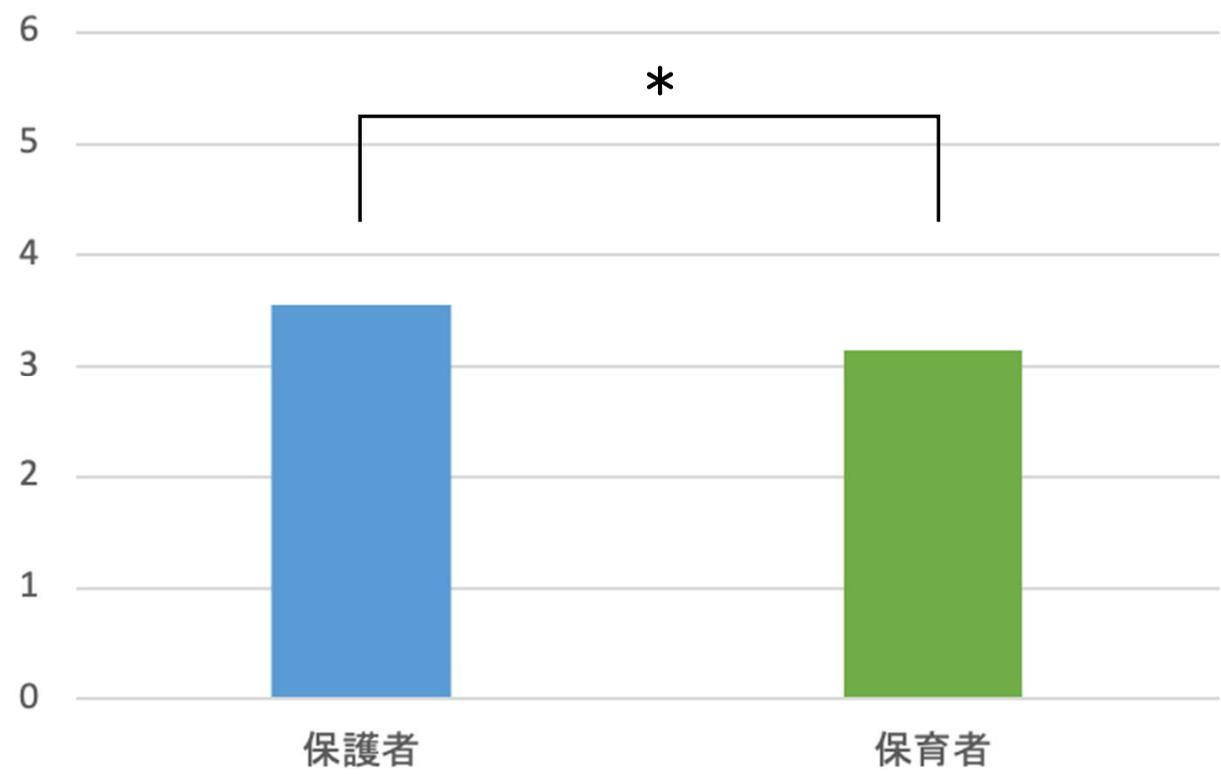
有意確率P *<.05 **<.01 ***<.001

- 1時間以内
- 1～2時間以内
- 2～3時間以内
- 3～4時間以内
- 4時間以上

これらの回答に1～5点を
配点し分析した

保育者と保護者の
運動に関する意識・回答の比較

子どもが、1日あたり体を動かして
遊ぶ時間の長さの認知



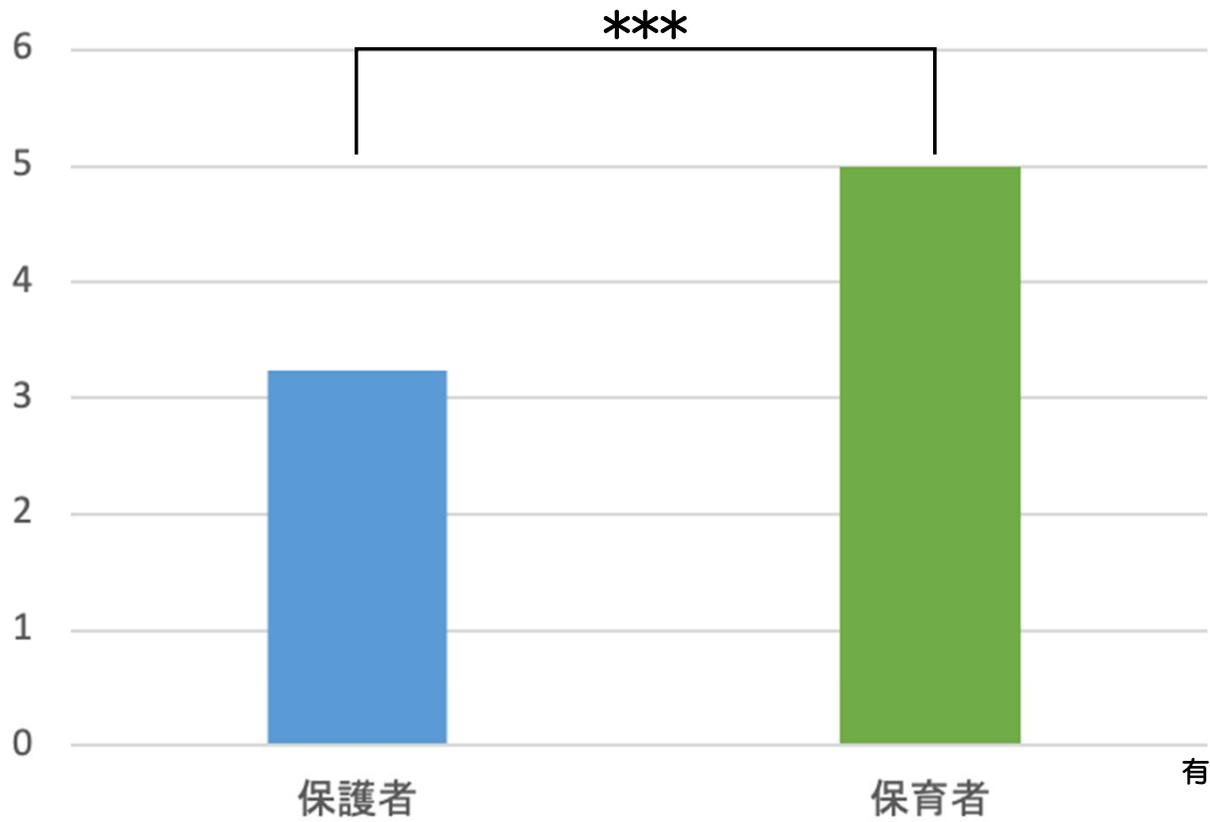
有意確率P *<.05 **<.01 ***<.001

- まったくしない
- 30分以内
- 30分~1時間くらい
- 1~2時間くらい
- 2~3時間くらい
- 3時間以上

これらの回答に1~6点を
配点し分析した

保育者と保護者の
運動に関する意識・回答の比較

子どもと一緒に体を動かして遊んでいる
(保育者は勤務中)



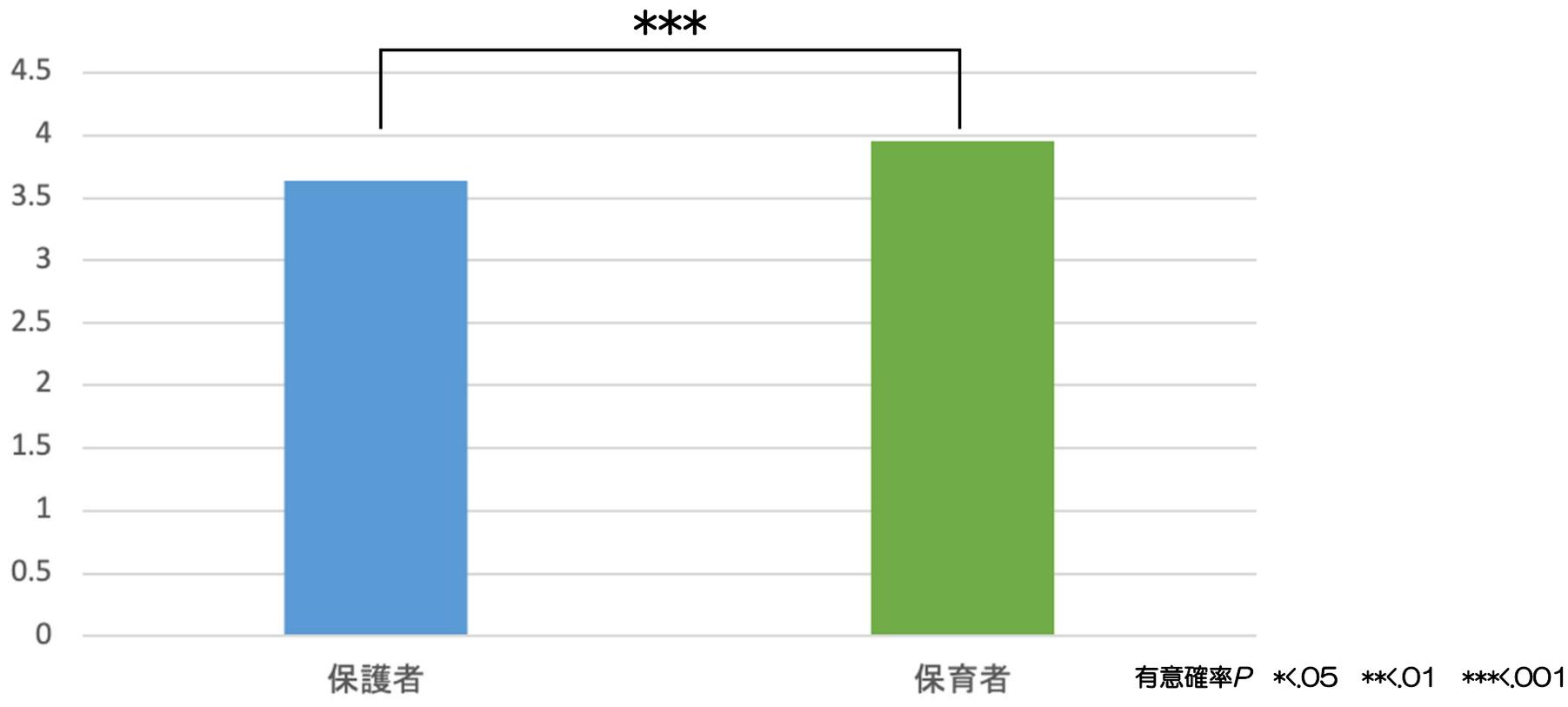
有意確率P *<.05 **<.01 ***<.001

- まったくしない
- 月に1~2回
- 週に1回くらい
- 週に2~3回
- 週に3~4回
- ほとんど毎日

これらの回答に1~6点を
配点し分析した

保育者と保護者の
運動に関する意識・回答の比較

今後、子どもと一緒に体を動かして
遊ぼうと思っている（保育者は勤務中）

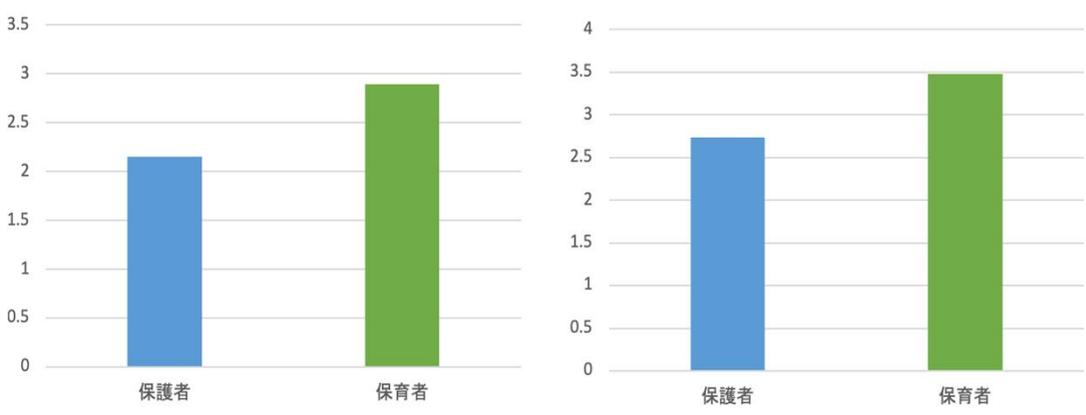


- とても思う
- やや思う
- あまり思わない
- まったく思わない

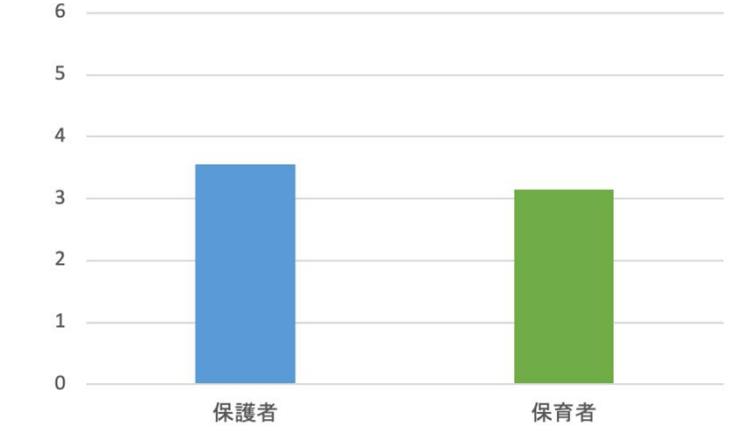
これらの回答に1~4点を
配点し分析した

保育者と保護者の
運動に関する意識・回答の比較

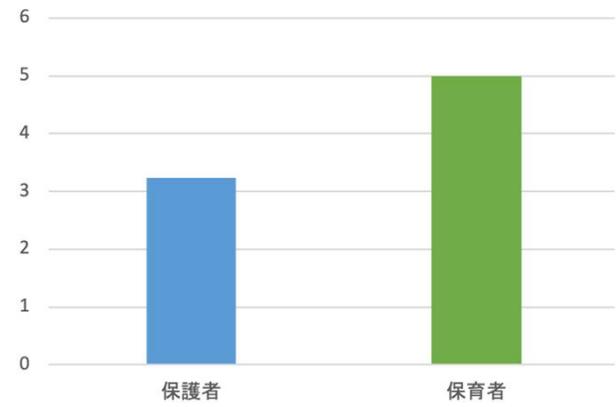
※統計的有意差がみられた項目のみ掲載
左が保育者 右が保護者



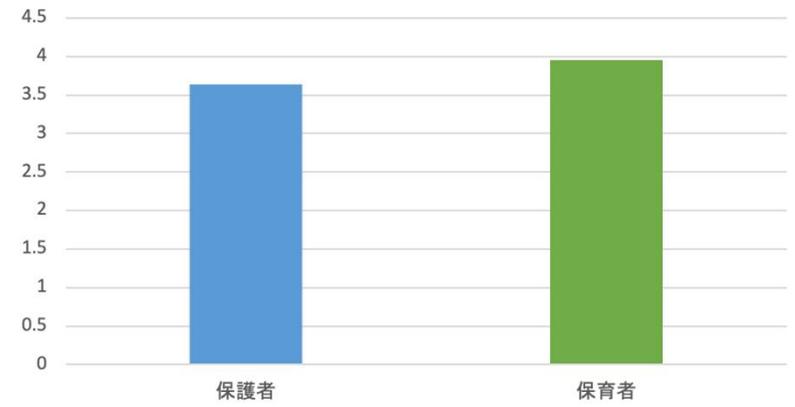
1日のスクリーンタイム (スマホ、PC、TV等)
左が平日、右が休日



子どもが、1日あたり体を動かして遊ぶ時間の長さの認知



子どもと一緒に体を動かして遊んでいる (保育者は勤務中)



今後、子どもと一緒に体を動かしてと遊ぼうと思っている (保育者は勤務中)

②分析結果等の報告

保護者の子どもとの運動実態と運動意識に着目して

保護者の意識変容

保護者の運動習慣の有無別
にみた意識の比較

保護者の運動の好き嫌い別
にみた意識の比較

保育者と保護者の
運動に関する意識・回答の比較

ご清聴ありがとうございました